

教育目標：心豊かに たくましく伸びていく子供

✦ 干布小学校だより

12月号 R1.12.23

天童市立干布小学校

校長 三好 義宏



夢中になれたことを振り返り 新しい年へ

23日に2学期の終業式を行いました。大きな行事が続く2学期は、子どもの成長や頑張りが見えた学期でもありました。一年を振り返りながら、良き新年をお迎えください。(終業式での講話の抜粋です。)

2学期の始業式には、こんな話をしました。「2学期は、好きなことに一生懸命になれる子どもになってください。好きなこと、夢中になれることを、見つける学期にしてください。」と言いました。それに関連した話をします。

先日、日本の吉野彰さんが、ノーベル化学賞を受賞しました。世界中で使われるようになっているリチウムイオン二次電池を発明した人ですね。パソコン・デジカメ・携帯電話に使われており、リチウム電池が無いと、長い時間使ってもらえないことになるほど、便利な電池です。吉野さんが化学について興味を持つようになったきっかけは、小学校4年生の時に担任の内藤先生が吉野さんに読むように薦めてくれた本、『ろうそくの科学』だったそうです。干布小学校の図書室にはなかった本ですが、みなさんで読んだことのある人はいますか。吉野さんが、小学生の時にこの本を読んだことがきっかけになり、その後ノーベル賞をいただけるまで、ずっと勉強を続けているなんて、すばらしいことだと思います。

次に、干布小のみなさんが夢中になっていて、いいなあと感じることを紹介します。図書館で見つけました。4年茂木然さん、6年後藤瑠太さんが、1日1冊のペースで本を読んでいます。読書は私もおすすめの丸3つの習慣です。1年生の教室で見つけました。アメリカザリガニを大切に育てていました。将来誰かが動物博士になるかもしれません。職員室で見つけました。4年生が調べたいことを、食品会社の広報室に電話をかけてお話をしていました。知らないこと調べる手順を学ぶことが大切なのです。なかよしホールで見つけました。5年生が命を守る避難について警察の方から学んでいました。いざという時は、自分の命は自分の判断で守る大切さを知りました。総合運動公園アリーナで見つけました。バスケが少の6年生が県大会の試合に出場していました。格好いいシュートを決めていました。市の展覧会で見つけました。堂々とした書写の文字、見る人を引き付ける絵が飾られていました。NDソフトスタジアムで見つけました。走るタイムを縮めようと努力した人、上位で入賞することを目指した人。辛い練習をよく頑張っていていました。もっとたくさんあったのですが、ここまでにしめます。

2学期は今日で終わりですが、夢中になれる事、興味をもてることを探すのは終わりではありません。自分らしくなれることと言ってもいいでしょうが、ずっと探し続けて下さい。

学校の事務職員として



主事 笹 廣祐

新規採用で干布小へ赴任して、はや3年が経とうとしています。私は学校事務職員という行政職員なのですが、県庁で働く行政職員と大きく違う点の一つあります。それは、職場が学校で、子ども達と共に生活しているということです。私は素直で元気いっぱいな干布小の子ども達が大好きです。そんな子ども達と、休み時間や行事などで関われることは、他の行政職にはできない学校事務職員ならではのいいところだと感じています。

私はこれから、担任の先生などの「教諭」とはまた違う立場で、より多くの子ども達と様々な場面で関わっていける、そんな事務職員を目指し日々精進していきたいと思っています。



探究型学習とは？

新聞やニュース等で、「探究」という言葉を見かけますね。高校にも「探究科」が新設され、小学校でも探究型学習を進めています。

本校でも、国語や算数でも探究型学習を進めています。一番象徴的なのは総合的な学習の時間です。課題を見つけ、解決方法を考え、調べまとめ、発信する流れがあるからです。4年生は紅花をテーマに学習し、先月、県教委主催ふるさと Yamagata 探究コンテストに出場しました。30数校の中から最高賞の「ふるさと探究大賞」を受賞しました。干布小の探究型学習が、認められた出来事でした。